



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月9日

上場会社名 株式会社ハピネット 上場取引所 東
 コード番号 7552 URL <https://www.happinet.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 榎本 誠一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員経営企画室長 (氏名) 石丸 裕之 (TEL) 03-3847-0410
 四半期報告書提出予定日 2022年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	220,488	9.7	5,293	23.4	5,519	26.7	3,532	28.4
2021年3月期第3四半期	200,927	10.6	4,290	41.8	4,354	46.4	2,751	60.8

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 3,262百万円(△22.6%) 2021年3月期第3四半期 4,217百万円(84.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	160.72	156.44
2021年3月期第3四半期	125.54	122.37

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	109,071	43,146	38.9
2021年3月期	82,957	40,973	48.5

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 42,436百万円 2021年3月期 40,226百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2022年3月期	—	25.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	35.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正については、本日(2022年2月9日)公表しました「配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	280,000	8.0	5,000	17.7	5,300	22.6	3,200	23.5	146.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想の修正については、本日(2022年2月9日)公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しているため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

対前期増減率は適用前の2021年3月期連結業績と比較し増減率を計算しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期3Q	24,050,000株	2021年3月期	24,050,000株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2022年3月期3Q	2,038,983株	2021年3月期	2,130,441株
------------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2022年3月期3Q	21,981,789株	2021年3月期3Q	21,912,869株
------------	-------------	------------	-------------

(注) 期末自己株式数及び期中平均株式数(四半期累計)の算定上控除する自己株式数には、「株式給付信託(J-ESOP)」に係る信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有している当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は、2022年2月9日に当社ウェブサイトに掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループの関連業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により先行きが不透明な状況で推移しているものの、緊急事態宣言の解除などもあり、引き続き持ち直しの動きが見られました。

このような状況の中、当社グループの経営成績につきましては、玩具事業でコンビニエンスストア向け商品が好調に推移したことや、アミューズメント事業でカプセル玩具の販売が伸長したことなどにより、売上高、利益面ともに前年同期を上回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,204億8千8百万円(前年同期比9.7%増)、営業利益は52億9千3百万円(同23.4%増)、経常利益は55億1千9百万円(同26.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は35億3千2百万円(同28.4%増)となりました。

なお、会計方針の変更として、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。このため、前年同期比較は基準の異なる算定方法に基づいた数値を用いております。詳細については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご参照ください。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①玩具事業

玩具事業につきましては、低年齢層向けの一般玩具は苦戦したものの、BANDAI SPIRITSの「一番くじ」関連商品や「ポケモンカードゲーム」を始めとしたトレーディングカードなど、コンビニエンスストア向け商品が依然好調に推移したことにより、売上高、利益面ともに前年同期を上回りました。

この結果、売上高は837億4千9百万円(前年同期比15.3%増)、セグメント利益は31億9千6百万円(同13.4%増)となりました。

②映像音楽事業

映像音楽事業につきましては、コロナ禍の影響を受けた前年同期からの回復に加え、「アニメ『うまよん』Blu-ray BOX」を始めとした当社独占流通作品のパッケージが好調に推移したことなどにより、売上高は前年同期を上回りました。利益面につきましては、当社出資映像作品の投資損失が発生したことにより、前年同期を下回りました。

この結果、売上高は519億5千1百万円(前年同期比5.7%増)、セグメント利益は5億9千7百万円(同1.0%減)となりました。

③ビデオゲーム事業

ビデオゲーム事業につきましては、「Nintendo Switch」「PlayStation5」のハードが依然需要が高い状況が続いていることに加え、「ポケットモンスター ブリリアントダイヤモンド・シャイニングパール」などのヒット商品もあったことにより、売上高、利益面ともに前年同期を上回りました。

この結果、売上高は675億1千7百万円(前年同期比1.9%増)、セグメント利益は13億7千6百万円(同3.8%増)となりました。

④アミューズメント事業

アミューズメント事業につきましては、当社運営のカプセル玩具ショップ「ガシャココ」の出店拡大に伴う初期費用を計上したものの、カプセル玩具の販売が好調に推移したことや、コロナ禍の影響を受けた前年同期と比較して、カードゲーム商品の売上が回復したことにより、売上高、利益面ともに前年同期を大幅に上回りました。なお、「ガシャココ」は2021年12月末日時点で33店舗を出店しております。

この結果、売上高は172億6千9百万円(前年同期比34.1%増)、セグメント利益は10億7千4百万円(同103.8%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ261億1千3百万円増加し、1,090億7千1百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少152億2千4百万円、受取手形及び売掛金の増加355億5千万円及び電子記録債権の増加21億3千9百万円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ239億4千1百万円増加し、659億2千5百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金の増加162億6千5百万円及び短期借入金の増加45億円によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ21億7千2百万円増加し、431億4千6百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益計上による利益剰余金の増加35億3千2百万円、その他有価証券評価差額金の減少2億6千1百万円及び剰余金の配当による利益剰余金の減少11億4百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、玩具事業、アミューズメント事業が好調に推移したことにより、2021年11月11日に「2022年3月期 第2四半期決算短信 [日本基準] (連結)」で公表いたしました連結業績予想を上回る見通しであります。

詳細につきましては、本日(2022年2月9日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,772	6,547
受取手形及び売掛金	30,813	66,363
電子記録債権	3,473	5,612
棚卸資産	6,827	8,628
その他	3,119	4,461
貸倒引当金	△3	△6
流動資産合計	66,003	91,607
固定資産		
有形固定資産	1,091	1,211
無形固定資産		
のれん	256	435
その他	2,115	1,840
無形固定資産合計	2,371	2,275
投資その他の資産		
投資有価証券	8,681	8,837
その他	4,833	5,159
貸倒引当金	△23	△22
投資その他の資産合計	13,491	13,975
固定資産合計	16,954	17,463
資産合計	82,957	109,071
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	29,097	45,363
短期借入金	-	4,500
未払法人税等	1,228	1,169
賞与引当金	242	397
その他の引当金	39	-
その他	6,715	9,665
流動負債合計	37,323	61,096
固定負債		
株式給付引当金	145	197
退職給付に係る負債	3,222	3,283
その他	1,292	1,348
固定負債合計	4,660	4,828
負債合計	41,984	65,925
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,751	2,751
資本剰余金	2,912	2,953
利益剰余金	33,582	35,959
自己株式	△1,873	△1,810
株主資本合計	37,373	39,853
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,844	2,583
繰延ヘッジ損益	8	0
その他の包括利益累計額合計	2,853	2,583
新株予約権	746	709
純資産合計	40,973	43,146
負債純資産合計	82,957	109,071

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	200,927	220,488
売上原価	180,319	197,591
売上総利益	20,608	22,897
販売費及び一般管理費	16,317	17,603
営業利益	4,290	5,293
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	132	136
新型コロナウイルス感染症による 助成金収入	38	17
その他	64	81
営業外収益合計	236	235
営業外費用		
支払利息	0	0
持分法による投資損失	154	6
その他	17	3
営業外費用合計	171	10
経常利益	4,354	5,519
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産売却損	-	3
固定資産除却損	25	4
投資有価証券売却損	0	-
減損損失	-	4
関係会社出資金評価損	-	52
特別損失合計	25	65
税金等調整前四半期純利益	4,328	5,454
法人税、住民税及び事業税	1,339	1,787
法人税等調整額	237	133
法人税等合計	1,577	1,921
四半期純利益	2,751	3,532
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,751	3,532

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	2,751	3,532
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,468	△261
繰延ヘッジ損益	△2	△8
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△0
その他の包括利益合計	1,465	△269
四半期包括利益	4,217	3,262
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,217	3,262
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、返品権付きの販売について、従来は返品調整引当金を計上しておりましたが、返品されると見込まれる商品についての売上高及び売上原価相当額を認識しない方法に変更しており、返金負債をその他流動負債に、返品資産をその他流動資産に含めて表示しております。また、顧客への商品の販売における当社の役割が代理人に該当する取引について、従来は顧客から受け取る対価の総額で収益を認識しておりましたが、当該対価の総額から仕入先等に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は632百万円減少し、売上原価は304百万円減少し、販売費及び一般管理費は311百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ17百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は15百万円減少しております。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	玩具事業	映像音楽事業	ビデオ ゲーム事業	アミューズ メント事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	72,641	49,153	66,257	12,874	200,927	—	200,927
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	72,641	49,153	66,257	12,874	200,927	—	200,927
セグメント利益	2,818	603	1,326	527	5,276	△985	4,290

(注) 1. セグメント利益の調整額△985百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△985百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	玩具事業	映像音楽事業	ビデオ ゲーム事業	アミューズ メント事業	計		
売上高							
顧客との契約から 生じる収益	83,749	51,951	67,517	17,269	220,488	—	220,488
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	83,749	51,951	67,517	17,269	220,488	—	220,488
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	83,749	51,951	67,517	17,269	220,488	—	220,488
セグメント利益	3,196	597	1,376	1,074	6,246	△952	5,293

(注) 1. セグメント利益の調整額△952百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△952百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「玩具事業」の売上高が237百万円減少し、「映像音楽事業」の売上高が380百万円減少、セグメント利益が17百万円減少し、「ビデオゲーム事業」の売上高が1百万円減少し、「アミューズメント事業」の売上高が12百万円減少しております。